

## ◇ 国 語

国 6-1～国 6-17 まで 17 ページあります。

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

私は子供のときには、余り質のいい方ではなかった。女中をいじめた。私は、のろくさいことは嫌いで、それゆえ、のろくさい女中を殊にもいじめた。お慶は、のろくさい女中である。林檎の皮をむかせても、むきながら何を考えているのか、二度も三度も手を休めて、おい、とその度毎にきびしく声を掛けてやらないと、片手に林檎、片手にナイフを持ったまま、いつまでも、ぼんやりしているのだ。足りないのではないか、と思われた。台所で、何もせず、ただのつそりつつ立っている姿を、私はよく見かけたものであるが、子供心にも、うすみつともなく、妙に癩にさわって、おい、お慶、日は短いのだぞ、などと大人びた、いま思っても背筋の寒くなるような

ア 言葉を投げつけて、それで足りずに一度はお慶をよびつけ、私の絵本の観兵式の何百人となくようよしている兵隊、馬に乗っている者もあり、旗持っている者もあり、銃担っている者もあり、そのひとりひとりの兵隊の形を缺でもって切り抜かせ、

イ なお慶は、朝から昼飯も食わず日暮頃までかかって、やつと三十人くらい、それも大将の髭を片方切り落したり、銃持つ兵隊の手を、熊の手みたいに恐ろしく大きく切り抜いたり、そうしていちいち私に怒鳴られ、夏のころであった、お慶は汗かきなので、切り抜かれた兵隊たちはみんな、お慶の手の汗で、びしょびしょ濡れて、私は遂に癩癩をおこし、お慶を蹴った。たしかに肩を蹴った筈なのに、お慶は右の頬をおさえ、がぼと泣き伏し、泣き泣き言った。「親にさえ顔を踏まれたことにはない。一生おぼえておられます。」うめくような口調で、とぎれ、とぎれそう言ったので、私は、流石にいやな気がした。そのほかにも、私はほとんどそれが

ウ でもあるかのように、お慶をいびった。いまでも、多少はそうであるが、私には無智な魯鈍の者は、とても堪忍できぬのだ。

一昨年、私は家を追われ、一夜のうちにキュウハクし、巷をさまよい、諸所に泣きつき、その日その日のいのちを繋ぎ、やや文筆でもって、自活できるあてがつきはじめたと思つたとたん、病を得た。ひとびとの情で一夏、千葉船橋町、泥の海のすぐ近くに小さい家を借り、自炊の保養をすることができ、毎夜毎夜、寝巻をしぼる程の寝汗とたたかい、それでも仕事はしなければならず、毎朝毎朝のつめたい一合の牛乳だけが、ただそれだけが、奇妙に生きているよろこびとして感じられ、庭の隅の夾竹桃の花が咲いたのを、めらめら火が燃えているようにしか感じられなかつたほど、私の頭もほとほと痛み疲れていた。

そのころのこと、戸籍調べの四十に近い、痩せて小柄のお巡りが玄関で、帳簿の私の名前と、それから不精髯のばしホウダ

イの私の顔とを、つくづく見比べ、おや、あなたは……のお坊ちゃんじゃございませんか？ そう言うお巡りのことばには、強

い故郷の訛なまりがあつたので、

「そうです。」私はふてぶてしく答えた。「あなたは？」

お巡りは、

a

「やあ。やはりそうでしたか。お忘れかも知れないけれど、かれこれ二十年ちかくまえ、私はKで馬車やをしていました。」  
Kとは、私の生れた村の名前である。

「ごらんの通り、」私は、にこりともせずに応じた。「私も、いまは落ちぶれました。」

「とんでもない。」お巡りは、

b

私は苦笑した。

「ところで、」とお巡りは少し声をひくめ、「お慶がいつもあなたのお噂うわさをしています。」

「おけい？」すぐには呑みこめなかった。

「お慶ですよ。お忘れでしょう。お宅の女中をしていた——」

思い出した。ああ、と思わずうめいて、私は玄関の式台にしゃがんだまま、頭をたれて、その二十年まえ、のろくさかつたひとりの女中に対しての私の悪行が、ひとつひとつ、はっきり思い出され、ほとんど座に耐えかねた。

「幸福ですか？」ふと顔をあげてそんな突拍子ない質問を發する私のかおは、たしかに罪人、被告、ヒクツな笑いをさええ浮べていたと記憶する。

「ええ、もう、どうやら。」

c

、お巡りはハンケチで額の汗をぬぐって、「かまいませんでしょうか。こんどあれを

連れて、いちどゆつくりお礼にあがりましたよ。」  
私は飛び上るほど、ぎよつとした。いいえ、もう、それには、とはげしく拒否して、私は言い知れぬ屈辱感みもたに身悶みもたえしていた。けれども、お巡りは、朗らかだった。

「子供がねえ、あなた、この駅につとめるようになりましてな、それが長男です。それから男、女、女、その末のが八つでことし小学校にあがりました。もう一安心。お慶も苦労いたしました。なんというか、まあ、お宅のような大家にあがって行儀見習いした者は、やはりどこか、ちがひななな。」すこし顔を赤くして笑い、「おかげさまでした。お慶も、あなたのお噂、しじゅうして居ります。こんどの公休には、きつと一緒にお礼にあがります。」急に真面目な顔になって、「それじゃ、きょうは失

礼いたします。お大事に。」

それから、三日たつて、私が仕事のことよりも、金銭のことで思い悩み、うちにじつとして居れなくて、竹のステッキを持って、海へ出ようと、玄関の戸をがらがらあけたら、<sup>(三)</sup>外に三人、浴衣着た父と母と、赤い洋服着た女の子と、絵のように美しく並んで立っていた。お慶の家族である。

私は自分でも意外なほどの、おそろしく大きな怒声を発した。

「来たのですか。きょう、私これから用事があつて出かけなければなりません。お気の毒ですが、またの日においで下さい。」

お慶は、エ 中年の奥さんになつていた。八つの子は、女中のころのお慶によく似た顔をしていて、うすのろらしい濁った眼でぼんやり私を見上げていた。私はかなしく、お慶がまだひとことも言い出さぬうち、逃げるように、海浜へ飛び出した。竹のステッキで、海浜の雑草を薙ぎ払い薙ぎ払い、いちどもあとを振りかえらず、一步、一步、地団駄踏むような荒んだ歩きかたで、とにかく海岸伝いに町の方へ、まっすぐに歩いた。私は町で何をしていたろう。ただ意味もなく、活動小屋の絵看板を見あげたり、呉服屋の飾窓を見つめたり、<sup>(三)</sup>ちえつちえつと舌打ちしては、心のどこかの隅で、負けた、負けた、と囁く声が聞えて、これはならぬと烈しくからだをゆすぶつては、また歩き、三十分ほどそうしていたらうか、私はふたたび私の家へとつて返した。

うみぎしに出て、私は立ち止った。見よ、前方に平和の図がある。お慶親子三人、のどかに海に石の投げっこしては笑い興じている。声がここまで聞えて来る。

「なかなか、<sup>(四)</sup>お巡りは、うんと力こめて石をほうつて、「頭のよさそうな方じゃないか。あのひとは、いまに偉くなるぞ。」  
「そうですとも、そうですとも。」お慶の誇らしげな高い声である。「あのかたは、小さいときからひとり変つて居られた。目下のものにもそれは親切に、目をかけて下すつた。」<sup>(五)</sup>

私は立ったまま泣いていた。けわしい興奮が、涙で、まるで気持よく溶け去ってしまうのだ。  
負けた。これは、いいことだ。そうなければ、いけないのだ。かれらの勝利は、また私のあすの出発にも、光を与える。

(太宰治「黄金風景」による)

問一 傍線部A・B・Cと同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

A キユウハク

- ① キユウソクの時間
- ② キユウチに陥る
- ③ 真理をキユウメイする
- ④ キユウヘイな考え方
- ⑤ キユウセイ主

1

B ホウドイ

- ① 人質を全員カイホウする
- ② カホウは寝て待て
- ③ 水はホウエンの器に随う
- ④ ホウガの上映
- ⑤ ホウガイな値段

2

C ヒクツ

- ① ヒガン花
- ② ヒゾウの家宝
- ③ ヒガイをこうむる
- ④ ヒリョウを施す
- ⑤ ヒレツな行い

3

問二 空欄 ア・イ・ウ・エ に入る最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

ア

- ① 乱暴な
- ② 無法の
- ③ 幼稚な
- ④ 非道の
- ⑤ 拙劣な

4

イ

- ① 不調法
- ② 不作法
- ③ 不器用
- ④ 無気力
- ⑤ 不注意

5

ウ

- ① 天命
- ② 趣味
- ③ 遊戯
- ④ 仕事
- ⑤ 正義

6

エ

- ① 品のいい
- ② 優雅な
- ③ 愛嬌あいきょうがある
- ④ しつかりした
- ⑤ おとなしい

7

問三 波線部（二）「毎夜毎夜、寝巻をしぼる程の寝汗とたたかい」に用いられている修辞法は何か。最も適当なものを、次の

①～④の中から一つ選べ。

① 直喩

② 擬人法

③ 隠喩

④ 反語

8

問四 波線部（二）と同じ修辞法の含まれているものを、次の①～④の中から一つ選べ。

- ① 「足りないのではないか、と思われた」
- ② 「親にさえ顔を踏まれたことはない」
- ③ 「地団駄踏むような荒んだ歩きかたで」
- ④ 「見よ、前方に平和の図がある」

9

問五 空欄 a・b・c はいずれも「お巡り」の笑顔の描写であるが、それぞれの空欄を補うのに最も適当なものを、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

c	b	a
12	11	10

- ① 実直そうに見えるが、油断のならない笑顔で
- ② 何かわだかまりのあるように
- ③ くったくなく、そうほがらかに答えて
- ④ 痩せた顔にくるしいばかりにいつぱいの笑をたたえて
- ⑤ なおも楽しげに笑いながら

問六 傍線部(二)「外に三人、浴衣着た父と母と、赤い洋服着た女の子と、絵のように美しく並んで立っていた」とあるが、「私は、この光景をどのように感じたのか。その説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。」

13

- ① 家庭の平和と繁栄が、三人の姿から想像することができる。
- ② 家族が三人並んで立っている構図は、絵の好材料になる。
- ③ 仲のいい家族であるが、この場面は無理にそう見せている。
- ④ 仲睦まじい親子三人の姿は、家庭の平和を象徴している。

問七 傍線部(三)「ちえつちえつと舌打ちしては、心のどこかの隅で、負けた、負けた、と囁く声が聞えて」とあるが、この中の「負けた」とは、どういうことなのか。その説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。」

14

- ① お慶の計画がやっと実現した上に、自他の上下関係が逆転したということ
- ② 子供の頃、お慶をのろまだと考えていたことがまちがいだったということ
- ③ 物心ともに悲惨な私の生活は、お慶の幸福な生活に劣っているということ
- ④ 健康で、金銭さえあれば、お慶に別の一面を見せられたのということ



問八 傍線部(四)「お巡りは、うんと力こめて石をほうって」という行動には、「お巡り」のどのような気持ちが表示されているか。その説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

15

- ① 今日の訪問が、彼らを更に幸福にしたという充実感
- ② お慶の言っていたことが、本当だったという満足感
- ③ 立派な人物と知り合いたいという誇る気持ち
- ④ 「私」に、いつか出世してほしいと期待する気持ち

問九 傍線部(五)「私は立ったまま泣いていた」とあるが、ここでは「私」はどのような心境なのか。その説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

16

- ① 「私」は、お慶をいじめたのに、お慶はそう思っていない、救われたということ
- ② お慶が「私」のした仕打ちを許してくれたことに対して感謝したいということ
- ③ 自分の敗北を認めることによって素直になり、どんなことでも許せたということ
- ④ 勝者に許容されることによって、勝者と敗者両者を受け入れられたということ

問十 太宰治は、文学史上、「無頼派」と呼ばれるが、この派に属する「作家」を、次の①～④の中から一人選び、また、太宰治の「作品」を、次の①～④の中から一つ選べ。

「作家」

①尾崎紅葉

②島崎藤村

③小林多喜二

④檀一雄

17

「作品」

①日輪

②斜陽

③太陽の季節

④暗夜行路

18

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

共同体の成員というのは基本的に平等というのが建前です。その感覚から日本的 ア というものが生まれている。これは、企業や組織で求められる機能主義とは相反するものです。

機能主義というのは、ある目的を果たすために、人間の使い方が、この人はこれ、この人はこれ、という風に イ 決まってしまうことになる。当然、「あの人もいい人だから、希望のブシヨ<sup>A</sup>に行かせてあげたい」とか「無能だけど家族があるからクビに出来ない」といった物言いは通用しません。その機能主義と共同体的な ア とがぶつかってしまうのが日本の社会です。

それでどうなるかといえば、結局、日本の社会は長い目で見れば、機能しなくなつて共同体になつてしまう。<sup>(二)</sup> 機能主義に共同 体の論理が勝つてしまうのです。

(中略)

現代ではかつてあつた大きな共同体が崩壊する一方で、会社やカ<sup>B</sup>ンチヨウといった小さな共同体だけが存在している。そのために、他の共同体から見れば「それはおかしいんじゃないの」ということが、閉じられた共同体の中では起こつてしまっている。これは「常識」が無いからだ、ということとは既に述べました。

では、その常識がどうしてなくなつたのかといえば、世間ではなく、小さな共同体の論理しかわからなくなっているからだ、と考えられます。

おそらく、社会全体が一つの目標なり価値観を持っていたときには、どのような共同体、または家族が理想であるか、ということについての答えがあつた。それゆえに、大きな共同体が成立していた。

とすると、どういう共同体が理想か、という問題を考える場合、実はその問い自体に大した意味はないのではないか。家族でいえば、大家族とか核家族とか、そういう形態は、あくまでも何を幸福として目指すのかということの結果でしかない。

同様に、あくまでも共同体は、構成員である人間の理想の方向の結果として存在していると思えます。「理想の国家」が先にあるのではない。

かつては「誰もが食うに困らない」というのが理想のひとつの方向でした。今はそれが満たされて、理想とするものがバラバラになっている。だからこそ共同体も崩壊している。昨今のフウチョウ<sup>①</sup>でいえば、こうしたバラバラであることそのものが自由の表れであるかのような考え方もあります。これはどこか「個性」礼賛と似ている。

しかし、そうではないのではないか。「人間ならわかるだろ」という常識と同様、人間にとって共通の何らかの方向性は存在しているのではないでしょうか。

私は、一つのヒントとなるのは「人生には意味がある」という考え方だと思っています。アウシュビッツの強制収容所に収容されていた経験を持つV・E・フランクという心理学者がいます。彼は収容所での体験を書いた『夜と霧』（みすず書房）や、『意味への意志』『生きる意味』を求めて『春秋社』など、多数の著作を残している。

そうした著書や講演のなかで、彼は、イッカン<sup>②</sup>して「人生の意味」について論じていました。そして、「意味は ウにある」と言っている。「自己実現」などといいますが、自分が何かを実現する場合は ウにしか存在しない。より噛み砕いていえば、人生の意味は自分だけでカンケツ<sup>③</sup>するものではなく、常に周囲の人、社会との関係から生まれる、ということとすれば、日常生活において、意味を見出せる場合はまさに共同体でしかない。

フランクが七〇年代にウィーン<sup>④</sup>の大学で教鞭<sup>⑤</sup>を執っていた際、アメリカからの留学生の六〇%が「人生は無意味だ」と考えていたそうです。これに対して、オーストリア人、ドイツ人、スイス人で「無意味だ」と考えていたのは二五%だった。特にアメリカ型の思考を持つ人にこういう考え方が多いことがわかった。さらに当時の統計で、若い麻薬患者の一〇〇%が「人生は無意味だ」と考えていたともいいます。

フランクは、強制収容所といういつ殺されるかもわからない状況下で、「生きるとはどういうことか」という意味について考えてきた。そして彼の人生の意味は「他人が人生の意味を考える手伝いをする」ことでした。

ガンの末期で寝たきりになった患者にとっての生きる意味を彼は問います。医者によつては、そういう人にはもはや生きる意味は無い、と判断するかもしれませぬ。しかし、フランクはこう考えました。「エ」エ「という意味があるのだ、と。

あるガン患者は、死んで子供たちと別れるのが辛いことを訴えました。これに対してフランクは、あなたに身内がいなければ嘆くことも出来ない、少なくともこの世に置いていきたくないものを残しているではないか、それがまったく無い人もある、という風に答えます。

人生の意味、という問題は、今でも非常に重要です。ドラッグが流行はやっていることから見ても、人生は無意味だと思っている<sup>(二)</sup>現代人が実に多いように見えます。人生の意味について考えていくことが、個人にとつても共同体にとつても、非常に必要なことなのではないか。

(養老孟司『バカの壁』による)

問一 傍線部A・B・C・D・Eと同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

A ブシヨ

- ① シヨメイし押印する
- ③ シヨシをつらぬく
- ⑤ シヨジ万端整う

- ② ユイシヨある品々
- ④ 年頭のシヨカン

19

B カンチヨウ

- ① キカンシ炎を患う
- ③ 消化キカンの病氣
- ⑤ シンカンセンを使う

- ② 報道キカンの責任
- ④ 有効キカンが過ぎる

20

C フウチヨウ

- ① チヨウレイ暮改
- ③ コウフチヨウの波がある
- ⑤ 新しいことにチヨウウセンする

- ② ほおをコウチヨウさせる
- ④ 会費をチヨウシユウする

21

D イツカン

- ① JRカンジヨウ線
- ③ カンレイを重んじる
- ⑤ 他人のカンジヨウを害する

- ② 利益をカンゲンする
- ④ 要求をカンテツする

22

E カンケツ

- ① 部屋をセイケツに保つ
- ③ 交渉がケツレツする
- ⑤ ケツサクを生み出す

- ② ダンケツが固い
- ④ 完全ムケツ

23

問二 傍線部 (a) の意味として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選んでマークしなさい。

24

(a) 教鞭を執(る)

- ① 教師として学問を教える
- ② 研究者として学問に専念する
- ③ きびしく学生を指導する
- ④ 学生として学問を追究する

問三 空欄 [ア]・[イ]・[ウ] に入る最も適当なものを、次の各群の①～④の中からそれぞれ一つずつ選べ。

[ア]・[ウ]

は二か所ずつあるが、いずれも同じものが入る。

[ア]

- ① 文化
- ② 悪平等
- ③ 差別
- ④ 被差別

25

[イ]

- ① 有無を言わせず
- ② 無作為に
- ③ 自動的に
- ④ 適材適所で

26

[ウ]

- ① 内部
- ② 自分
- ③ 外部
- ④ 他人

27

問四 空欄 エ に入る最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

- ①その人が運命を知ったうえで取る態度によって、周囲の他人が力づけられる
- ②その人を勇気づけ励ますことによつて、生きる意味を見出させることができる
- ③その人が絶望しないように、できるだけ真実を伝えないことにより希望を持たせる
- ④その人が知らないふりをするこゝで、周囲の他人も絶望から逃れることができる

28

問五 傍線部（二）「機能主義に共同体の論理が勝つてしまふ」例として適当でないものはどれか。次の①～④の中から一つ選べ。

- ①日本の省庁が、省の本来の役割を省みないまま、職員全体の利益のために皆が動くような場合。
- ②戦時中、陸軍と海軍が主導権争いをしながら、その合間にアメリカと戦争していた、という笑い話。
- ③提携している外国企業から派遣された外国人重役が、会社の建て直しのために人員削減を行う場合。
- ④経営状況がおもしろくない企業において、無理な人員削減をおこなわず、景気回復をじっと待つ場合。

29



問六 傍線部（二）「人生は無意味だと思っている現代人が実に多い」のはなぜか。理由としてあてはまらないものを、次の①～④の中から一つ選べ。

30

- ① 共同体の理想が満たされてしまい、理想とするものがバラバラになってしまったから。
- ② 共同体が崩れ去ってしまい、小さな共同体の論理しからなくなっているから。
- ③ ドラッグにおぼれると、ほとんどの人が「人生は無意味だ」と考えるようになるから。
- ④ 人生の意味は常に周囲の人、社会との関係から生まれる、ということが理解できないから。

問七 本文中に述べられている「機能主義」に沿った行動としてあてはまるものを、次の①～④の中から一つ選べ。

31

- ① あの人には気の毒だから助けてあげる。
- ② いい人だけと能力が劣るからクビにする。
- ③ あの人とはウマが合わないから別のブシヨに移す。
- ④ 無能だけど家族があるのでクビにしない。

問八 本文中に述べられている「共同体」の説明として、あてはまらないものを、次の①～④の中から一つ選べ。

- ① 共同体とは、個人の意味を見出せる唯一の場である。
- ② かつては大きな共同体が存在し、共同体の存在意義や理想が明確であった。
- ③ 共同体は、あらかじめ形をめざして作られるものではない。
- ④ 現在では徐々に機能主義が優先され、共同体は機能しにくくなっている。

32

問九 本文の内容にあてはまらないものを、次の①～④の中から一つ選べ。

- ① それぞれの「自己実現」は「個性」を礼賛することで生まれる。
- ② 「人生の意味」は、常に周囲の人、社会と関わることで得られる。
- ③ 「人生が無意味だ」と考える人の割合は、国や文化によって異なる。
- ④ 他の共同体がおかしく見えるのは、「常識」がなくなったからである。

33